

豊かな自然と大地の恵み

心ふれあう協働のまち

# 三種町





### 発刊にあたって

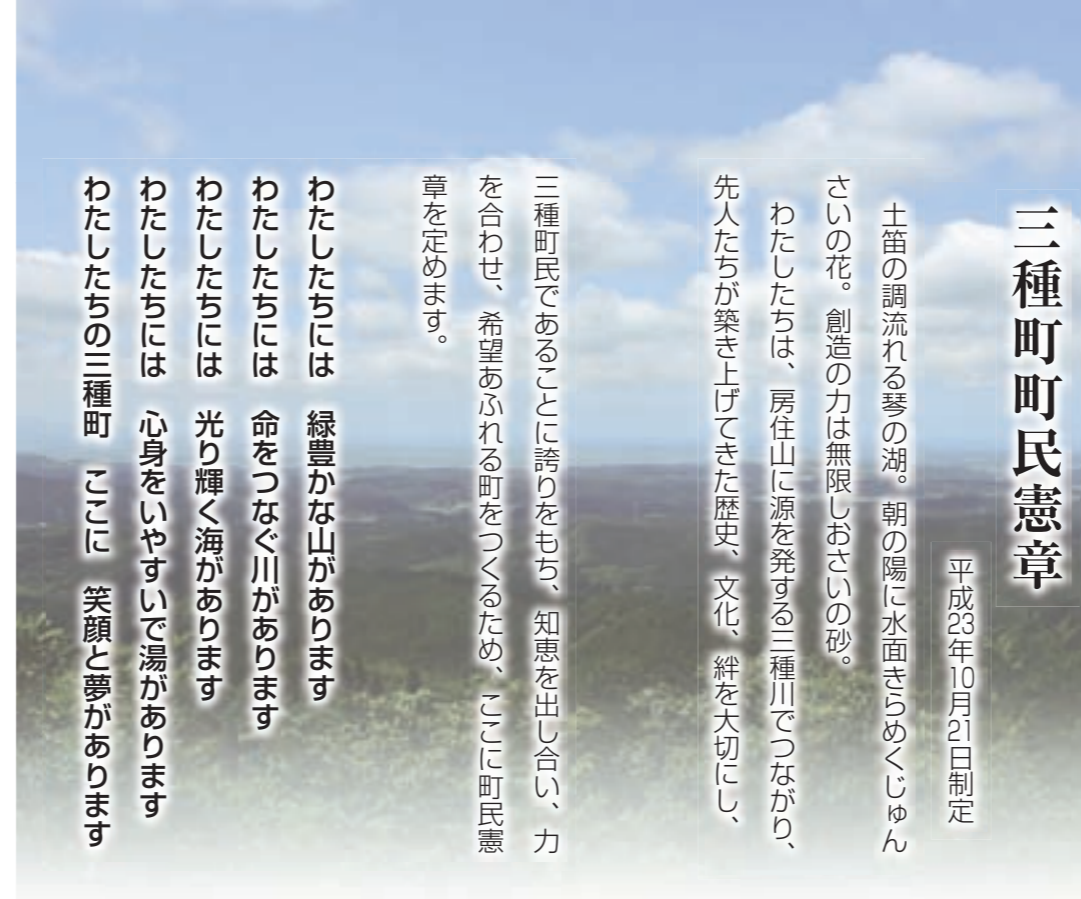
平成18年の合併以来、町を取り巻く環境は人口減少社会の到来、団塊世代の大量退職など社会構造の変化、長引く不況による地域経済の低迷など大きく変化しつつあります。

また、地域の防災・防犯、医療・福祉、教育、過疎対策等の課題も山積しており、地域の活性化が大きな課題となっています。

一方、地方分権改革は着実に進展し、権限と責任が自治体に整理される方向にあります。地域経済の活性化と安心・安全の確保など諸課題に対処するためには自治体の政策立案能力が求められ、地域住民の信頼に応え、誇りを持てるような地域作りを進める必要があります。

本書では三種町にある「宝物」とも言える地域資源をたくさんご紹介いたしました。改めて本町の多様さに驚かされますが、本書が町の現状を理解し、町の将来像を描く上での貴重な資料として多くの皆様のお役に立つことを心から念願しております。

三種町長 **三浦 正隆**



## 三種町町民憲章

平成23年10月21日制定

土笛の調流れる夢の湖。朝の陽に水面きらめくじゅんさいの花。創造の力は無限しおさいの砂。

わたしたちは、房住山に源を発する三種川でつながり、先人たちが築き上げてきた歴史、文化、絆を大切にし、

三種町民であることに誇りを持ち、知恵を出し合い、力を合わせ、希望あふれる町をつくるため、ここに町民憲章を定めます。

わたしたちには 緑豊かな山があります  
わたしたちには 命をつなぐ川があります  
わたしたちには 光り輝く海があります  
わたしたちには 心身をいやすいで湯があります  
わたしたちの三種町 ここに 笑顔と夢があります

### 【三種町の由来】

三種町は平成18年3月20日、琴丘町、山本町、八竜町の三町が合併して誕生しました。その名称は、旧三町を流れる三種川に由来します。

「長寿の種」「福祿の種」「楽の種」の三つの種を語源とする三種川は、旧琴丘町の房住山に源を發し、旧山本町を横断、旧八竜町の八郎湖に注ぎます。この地域の大動脈として生活や農業などに深い関わり合いをもっています。

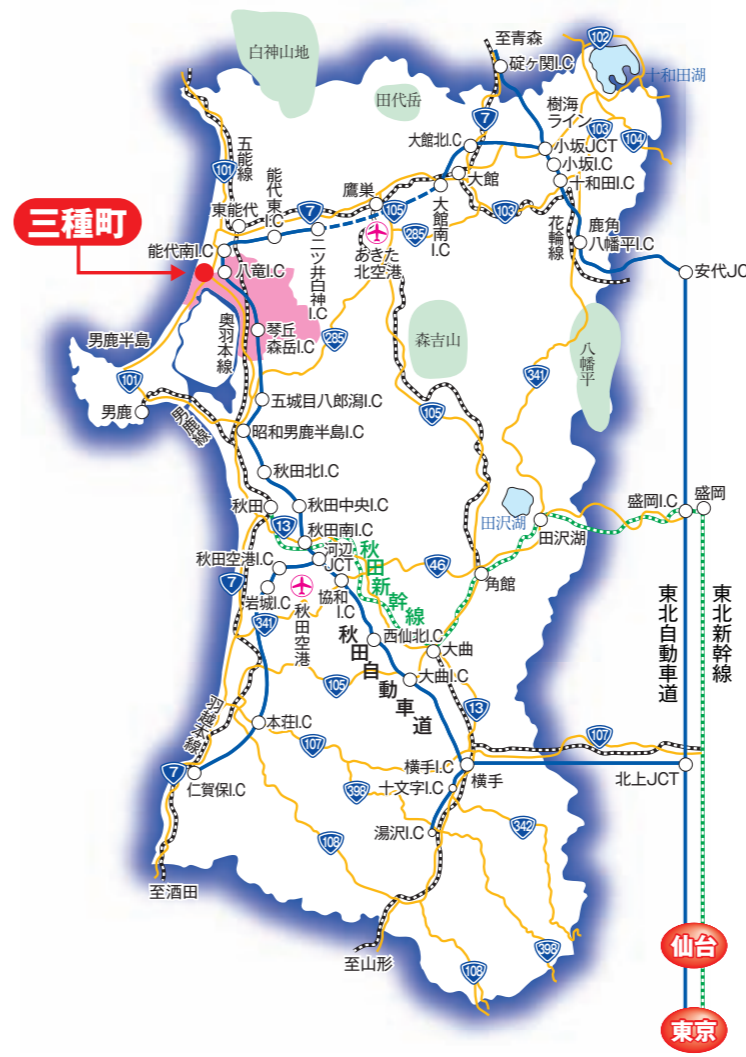
三種川のように旧三町が一体感を持てるよう、旧三町で知恵を出し合い活力あるまちづくりができるように、という願いが込められています。

### 【位置と地勢】

三種町は、秋田県北西部に位置し、東は能代市、上小阿仁村、南は男鹿市、大潟村、八郎潟町、五城目町、西は日本海、北は能代市に接しています。

東西が約25km、南北が約20kmで、房住山に源を發する三種川がほぼ中央を流れ、八郎湖へと注いでおり、東部の丘陵地から西部の平坦地までゆるやかに傾斜した地勢となっています。

気候は、四季の移り変わりが明瞭で、対馬暖流の影響により年間の平均気温は10℃前後と温暖ですが、冬は低温で日本海側特有の北西に強い季節風が吹きます。降雪日数は40～50日で、積雪は平野部で10～50cm、山間部では100cm以上になります。

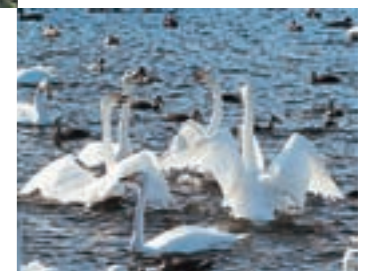


まちの花 さくら／桜  
(平成22年3月1日制定)



まちの木 スギ／杉  
(平成22年3月1日制定)

まちの鳥 はくちょう／白鳥  
(平成22年3月1日制定)



目次	
町の概略・位置・地勢	2～3
<b>楽の種【恵まれた環境】</b>	
◎あふれる緑【公園・山】遊ぶ	4～5
◎輝く水面【海・湖沼・川】楽しむ	6～7
◎潤う心とカラダ【温泉】癒す	8～9
◎燃える情熱【イベント】沸きあがる	10～11
<b>長寿の種【受け継ぐ文化】</b>	
◎悠久の時【神社・旧跡・文化財】触れる	12～13
◎伝統への敬慕【郷土芸能】つなぐ	14～15
◎ふるさとの味【特産品】味わう	16～17
<b>福祿の種【未来のために】</b>	
◎活力に満ちた、個性豊かな産業のまち	18～19
◎快適で安全な生活を支えるまち	20～21
◎すこやかに安心して暮らせるまち	22～23
◎創造性豊かな文化と、きらめく人を育むまち	24～25
◎住民ひとりひとりの声を反映させるまち	26～27
郷土の偉人	28～29

## あふれる緑 [公園・山] 遊ぶ



### 房住山

かつて修験者の道場地として栄えた房住山は、峰一円に当時をしのばせる三十三観音像が点在しています。

房住山周辺には三種川の源流部にあたる扇滝、昔の寺坊を復元した房住神社などがあります。

### 恵まれた環境

## 楽の種

思わず童心にかえる四季の彩りを見せてくれる自然の横顔に、駆け出したくなる緑の公園。眩しい木漏れ日と木々のざわめき

心身共にリフレッシュできる豊かな緑に恵まれている三種町。自然の中で憩いのひとときを過ごすことができます。



### 石倉山公園

春は桜をはじめ、群生するミズバショウやカタクリが花を開き、秋は美しい紅葉など四季折々の自然とふれあうことのできる公園です。山頂からは八郎潟残存湖や男鹿半島、世界遺産白神山地などの大パノラマを楽しむことができます。



### 惣三郎沼公園

緑あふれるオープンスペースで、町民に憩いの場を提供しています。周辺には、文化の香り漂う山本ふるさと文化館や森岳温泉ゆうばる、秋田森岳温泉36ゴルフ場、テレトラック山本などがあります。



### はねがわ森林公園

羽根川ダムの湾曲した地形を活かした緑豊かな森林公園です。

キャンプ場、アスレチック遊具、ダムの周りがある散策路など、ゆったりと自然を満喫することができます。

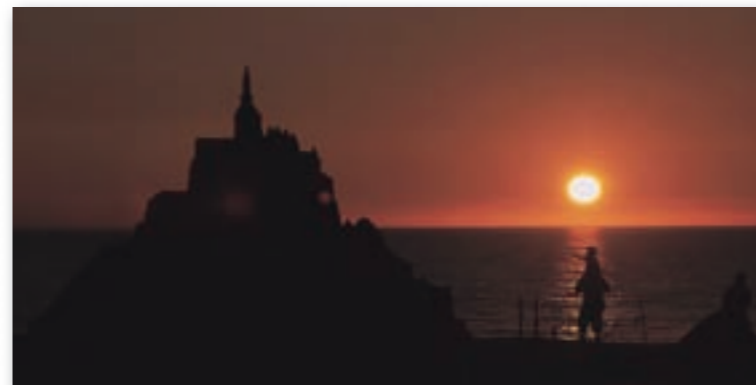


輝く水面 [海・湖沼・川] 楽しむ



釜谷浜海水浴場『快水浴場百選』

長く続く美しい砂浜ときれいな水が自慢の釜谷浜海水浴場は、離岸堤のない自然のままの砂浜を残しており、平成13年に現環境省の「日本の水浴場88選」、平成18年には同省の「快水浴場百選」に選ばれました。北に世界遺産白神山地、南に男鹿半島、寒風山を望む大自然のパノラマに囲まれた釜谷浜は、海水浴やキャンプなど県内外から大勢の人でにぎわいを見せます。



恵まれた環境

楽の種

山の雫は谷を走り川となり  
流れは心を潤しやがて海へと帰る  
きらめく水面は私たちに  
安らぎと恵みを与えてくれる

どこまでも伸びていく砂浜、海岸線に沿って悠然と回る風車。三種町は美しさも豊かさを兼ね備えた水環境に恵まれています。

海や川の恩恵

三種町の豊かな水環境は、釣り人の楽園となっています。釜谷浜ではキスなどの投げ釣り、八郎湖では、夏はバスフィッシング、冬はワカサギ釣り、沼や川ではフナ釣りなど、季節を問わず様ざまな釣りを楽しむことができます。

## 潤う心とカラダ [温泉] 癒す

三種町の温泉は塩分濃度が高く、美肌効果が抜群。湯あがり後には、保水効果に優れた「じゅんざい」を食べて、内からも潤いを与える。体の内と外からの相乗効果。これが、うるうるで、しっとりお肌の三種美人を生み出す秘訣です。

## 恵まれた環境

## 楽の種

体を癒し心を癒す温泉の湯につかるひとときは故郷の優しさに包まれたように暖かい

### 「しょっぱい温泉」森岳温泉郷

森岳温泉は昭和27年、石油採掘中の田んぼの中から突然湧き出した温泉で、日本有数の「しょっぱい温泉」として有名です。泉質は、塩分濃度の高いナトリウム・カルシウム塩化物質で弱アルカリ性。湯質にも優れ、美肌効果や健康に対する効果も抜群です。



### カップの足湯

森岳温泉の一角に設けられており、無料で利用することができます。



### 森岳温泉ゆうばる

町民健康保養センターとしてオープンしたゆうばるは、「ひば」の浴槽がぬくもりを感じると好評です。

### 多目的広場ゆめっぴい

入浴前にグラウンドゴルフを楽しみませんか？遊具も備えていますのでご家族どうぞ。



### 砂丘温泉ゆめろん

砂丘温泉ゆめろんは、日本海を見渡すことのできる高台にあり、自然と調和した落ち着いた雰囲気天然温泉施設です。大小5つの浴槽とサウナ室を備えており、海水浴客や釣り客など多くの人に利用されています。

燃える情熱 [イベント] 沸きあがる



### サンドクラフトinみたね

夏の一大イベント「サンドクラフト」は、「快水浴場百選」に選ばれた釜谷浜で7月下旬に開催されています。特殊な工法で作る砂像は、個性あふれる作品が展示され、見る人を魅了します。期間中は様々なイベントが行われ、夜にはライトアップされた砂像をバックに花火が打ち上げられます。

### 鯉まつり

鯉まつりは、地域の活性化と子どもたちの成長を願って、地区の鎮守・磯前神社の例大祭に合わせて実施されています。木彫りの大ゴイが鯉川川をさかのぼり、一気に橋の上へ引き上げられる場面が特徴的イベントです。



## 恵まれた環境 楽の種

躍動する郷土愛のエネルギー  
三種町は、豊かな森林資源、温泉、日本海、遺跡・史跡など多様な観光資源に恵まれ、四季を通じて様々なイベントが開催されています。



### 森岳温泉夏まつり

森岳温泉夏まつりは、8月下旬に開催されるイベントで、50年以上の歴史をもったイベントです。日本一の生産量を誇るじゅんさいを使った催しや、プロアーティストを迎えた野外コンサート、過ぎゆく夏の夜空に大輪を咲かせる花火大会などが行われます。

# 長寿の種

己のルーツに想いを馳せる

広大な八郎湖に沿ったこの地には、古より人が住んでおり、縄文時代の遺跡などが多数発掘されています。また、文化財や旧跡などからは、先人の文化をつかがい知ることができます。

## 悠久の時 [神社・旧跡・文化財] 触れる



### 姥御前神社 (芦崎)

八郎太郎の伝説を有し、対岸の天瀬川(三倉鼻)の男神(夫殿)と一対になった逸話を持っています。



### 鹿渡神社 (鹿渡)

創建は天正年間といわれ、鹿渡周辺を治めていた国柄氏が城の守り神として鎮座したのが始まりと伝えられています。



### 森岳八幡神社 (森岳)

この神社は、以前堂廻りにありましたが、森岳の鎮守として現在地に遷宮されたと伝えられています。境内には、森岳歌舞伎が行われる農村歌舞伎会館があります。



### 大山家 (飯塚)

飯塚地区にある大山家は、19世紀の江戸時代後期に建てられた家屋で、国の重要文化財に指定されています。すでに170年を経過した住居ですが、一切の装飾を排した技法で建てられた大山家は、現在の住宅にはない趣があり、日本古来の伝統的な木造住宅の本質美を備えているといえます。

## 琴丘歴史民俗資料館【縄文の館】

三種町には、いたるところに縄文時代の遺跡があり、数多くの土器や石器が出土しています。中でも、高石野遺跡から発掘された海獣のアシカをかたどったとみられる「土笛」は、たいへんめずらしく学術的にも貴重な発見とされています。

縄文の館には、これら先人の残してくれた遺物を縄文時代の生活のジオラマやタイムスリッパームなど、さまざまな手法により展示しています。



## 琴丘歴史民俗資料館【三種の館】

この館は、上岩川の明治初頭に建てられた民家を移転修復したものです。ニワ土間と呼ばれる土間部は、雪国では特に広くとり、作業、飼育、貯蔵などの多目的な機能を持った空間です。

座敷等の接客部分が比較的広い間取構成は、社会礼儀を重んじる風潮を反映した、近世民家以来引き継がれてきた大きな特色です。三種の館には農具や民具が展示されており、その展示資料からは先人の知恵と工夫を感じ取ることができます。



## 伝統への敬慕 [郷土芸能] つなぐ



### 落合地区ねぶ流し

江戸時代末期から伝わるといわれ、毎年8月6日に行われる行事で、わら人形に火を付けて三種川に流して災いを払い、秋の豊作を祈ります。



### 勝平地区鳥追い

上岩川勝平地区に伝わる小正月行事で、子どもたちが拍子木を持ち、鳥追いの唄を歌いながら豊作を祈願します。



### 森岳歌舞伎

その昔、巡国の山伏が病に倒れこの地の神社に籠もったが、村人の看護により全治し、そのお礼に演じたのが始まりと言われています。

現在は、毎年9月に行われる森岳八幡神社例大祭の奉納として、同境内にある農村歌舞伎会館で上演されています。



### 浜田どんど焼き

小正月に行われる火祭り行事で、竹のやぐらの中に、住民が持ち寄った正月かざりなどを納めて焼き、1年の災難を払います。



### 志戸橋番楽

天正年代、修験者安部家3代目大鏡院昭山師が修練のため上方へのぼり、田楽の一種山伏神楽を習得して帰り、檜山舞いを始めたこと記録にあり、その系統に属するとされています。

受け継ぐ文化

## 長寿の種

守り伝えていく伝統の芸能  
雅な世界に先人の息遣いを感じる  
三種町内では、古くから伝わる伝統芸能や伝統行事が、熱心な町民によって受け継がれています。これら郷土芸能は、三種ミュージカルやサウンドクラフト等のイベントでも披露され、人びとを華麗な舞いで魅了しています。



### 泉八日ささら

西暦685年、齊明天皇期の阿部比羅夫東征の時、その配下の一軍が八竜の明神裏手に上陸、この地の民の人心安定に用いられ、船頭藤原某より伝えられたとされています。



### 中館番楽

約400年前に獵師によって伝えられたといわれ、勇壮なマタギと武人の血と面影を彷彿とさせます。

## ふるさとの味 [特産品] 味わう



### ドラゴンフレッシュセンター

八竜地域に位置し、天高くそびえるドラゴンタワーが目印の農産物直売所です。メロンをはじめ、地元農家が丹精込めて作った真心の味をご賞味ください。

Tel. 0185-85-3116

### じゅんさいの館

山本地域の国道7号沿いにある大きな木造の館で、カップの付いたモニュメントが目印です。旬のじゅんさいや新鮮野菜・果物が並び、軽食コーナーでは地元の志戸橋そばも堪能できます。

Tel. 0185-72-4355



### 直売施設 グリーンぴあ

道の駅「ことおか」の敷地内にある直売所です。梅の加工品や新鮮野菜が豊富です。隣接する体験学習物産館「サンバリオ」では各種体験やお食事ができます。

Tel. 0185-72-2299



### サンキューメロン

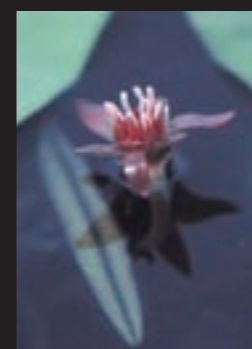
浜口地区は、日本でも珍しいサンキューメロンの産地です。甘味の強い果肉は、デザートとして大人気。ぜひ一度、ご賞味ください。



忘れられない故郷の味  
大切に育まれた食の文化  
三種町には海・山・湖、その豊かな自然がもたらす  
たくさんのお恵みを活かした様々な農産物・特産品  
が豊富に揃っています。

## 受け継ぐ文化

# 長寿の種



### 日本一のじゅんさい

国内トップの生産量を誇るじゅんさいは、独特のヌメリと、ツルツルした喉ごしが特長のヘルシーな食品です。

じゅんさい沼に小舟を浮かべた摘み採り風景は、夏の風物詩として知られています。

# 産業 Industry

産業の振興は、町民生活の豊かさを高め、町の活気と発展を支える基盤になると同時に、若年層などの定住を促進するうえでも重要な要件であり、町の重要課題として位置づけられています。

このため、豊かな自然環境との調和に重点を置き、地域資源を活かした産業の活性化でまちづくりを進めるとともに、新産業の振興や起業の促進を図りながら、第一次産業から第三次産業にわたって相乗効果のある活力ある地域産業づくりをめざします。



農業 (田植え作業)



畜産業 (地鶏の飼育)



小売業 (朝市)



林業 (林産物の出荷)



製造業 (銅管製造)



水産業 (ヒラメ稚魚の放流)



建設業 (生木作業)



製造業 (パン類の製造)

未来のために  
福祿の種  
個性豊かな産業のまち  
活力に満ちた、



林業 (枝切り)

# 生活環境 Living environment

豊かな自然と快適な住環境は、住む人の心をなごませ、定住の大きな力となっています。人が集う魅力ある地域となるためには、居住環境基盤が整っていなければなりません。

暮らしの環境に対する地域住民のニーズの多様化、高度化に適切に対応し、生活の質の向上、地域の活力の維持増進を図るため、地域環境を活かしたやすらぎのある居住環境づくりに努め、快適な生活環境をめざします。

また、災害や事故、犯罪などから町民を守り、全ての町民が安心して暮らせる対策の充実に取り組み、生涯を託せる安心のまちづくりを進めます。



交通指導隊観閲式



生活環境の整備



未来のために  
福祉の種  
快適で安全な生活を支えるまち



大規模火災を想定した消防訓練



各地におけるクリーンアップ活動



除雪作業



人命と財産を守る町消防団出初式



小学生による交通安全パレード

# 福祉 Welfare

本格的な少子高齢化社会の今日、町民の保健・医療・福祉に対するニーズはますます多様となり、高度化していくことが見込まれます。その一方で、核家族化や女性の社会進出などと相まって、子どもや家庭を取り巻く状況は変容しつつあります。

このような現状を踏まえ、高齢者や障がい者などに考慮しながら、保健・医療・福祉などの連携と地域の支え合いにより、生涯を通じて一体的なサービスが適切に提供される『すべての町民が安心して心豊かに暮らすことができる豊かな町づくり』『子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり』を推進します。



クアオルトによるいきいきプロジェクト



笑顔の絶えない町づくりのために



大学生による除雪ボランティア



子どもたちの健やかな成長を祈って

未来のために  
すこやかに安心して暮らせるまち  
福祉の種



敬老式



検診風景



老人クラブによる保育園児の餅つき体験



100歳の長寿を祝って

# 教育・生涯学習

## Education and life study

高齢化や国際化、情報化の一層の進展など時代が大きく変化する中で、これからのまちづくりには、急激な社会変化に柔軟に対応した新たな時代を切り開く創造性豊かな人材がますます不可欠となっています。

また、生活の充実感や生きがいを実感しながら「人生を心豊かに送りたい」という町民の要求は強まり、学習活動やスポーツ活動、文化活動に対する関心も高まっています。

このため、たくましい次代の担い手を育む学校教育の充実や生涯学習のまちづくりの推進とともに、地域に根ざした文化活動の振興や交流あふれるまちづくりに努めるなど、新たな時代を拓ききらめく人づくりと創造性豊かな文化づくりをめざします。



小学校入学式



ステンシル講座



防火弁論大会



三種ミュージカル

### 未来のために 福祿の種

創造性豊かな文化と、  
きらめく人を育むまち



中学校卒業式



小学生による子ども議会



スポ少野球教室



剣道錬成大会



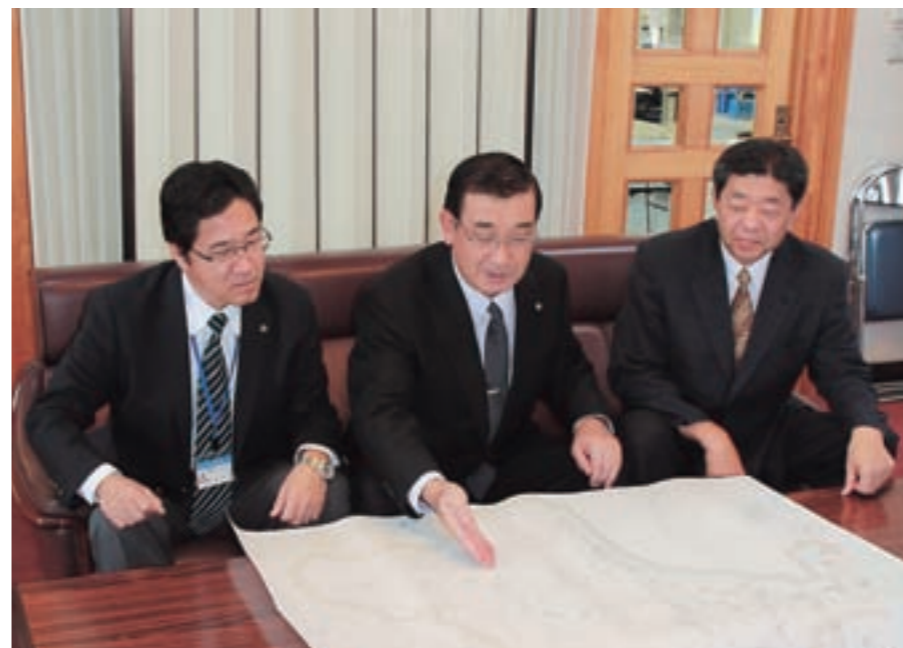
太極拳講座

# 行政・議会

## Administration and an assembly

社会情勢に対応した組織や機構の改革、効率のよい事務事業の実施などにより、迅速かつ確な行政サービスの提供と財産基盤の強化に努め、町民がより満足できる行財政運営を推進します。

また、町民の生活安定と経済効果を高め、活力ある町政の推進を目指し、議会とともにまちづくりを進めます。



未来のために  
福祿の種  
住民ひとりひとりの声を  
反映させるまち





### 秋田県俳壇の先駆者 佐々木 北涯

慶應2年（1866年）、久米岡に生まれる。本名・佐々木久之助。俳人としての号を「北涯」と言った。北涯は、共に俳諧の宗匠であった父の政綱と祖父の政茂の手ほどきを受け、その才能を開花させて行く。

そして明治26年頃、若宗匠として参加した能代・山本地方の句会で若き島田五空（能代の一時代を象徴する人物）と出会う。その後、正岡子規の考え方に感動した北涯は弟子となり、五空等仲間七人で「北斗吟社」という集まりを組織。高浜虚子や石井露月から指導を得ながら、機関誌「北斗」を発行。後にこれは、日本でも指折りの俳句雑誌「俳星」に生まれ変わる。北涯は俳星に自分の句や文を発表するほか選者となるなどして活躍した。また一方で北涯は、県議会議員として四期当選した政治家であり、地域の耕作地を増やす

ため八郎潟沿いの荒地を開拓した農業指導者でもあった。明治26年には秋田県から八郎潟予約開墾許可を受け、開墾作業を進めたが、大正7年、病にかかった北涯は、53歳の若さで息を引き取った。彼の功績を後世に伝えるため、昭和19年、地域住民によって神社の境内に頌徳碑が建立された。

### 砂防林の植林に懸けた意志を受け継ぐ 金子兵左衛門

浜口地区は、今でこそ畑地栽培の盛んな土地であるが、300年前は草木もまばらな砂丘地帯であり、農業を行うには困難を極めた地であった。しかし、これを克服するため立ち上がったのが、大口の5代目金子兵左衛門だった。兵左衛門は人々の暮らしを砂から守るため、浜にネムヤグミといった木を植えたが、成果を上げることはできなかった。父の意志を継いだ6代目兵左衛門は、人づてに北陸海岸の松のことを聞き、北陸へと旅をしながら松林を観察した。また、3度京都に足を運んで松の植林方法を学び、優れた種を持ち帰って植林を続けた。そして、7代目兵左衛門の時、約100年という年月をかけて見事な松林が作り上げられた。こうした親子三代にわたる私財を投じての取り組みは藩にも評価されることとなり、藩より砂留取締役に任命され、八峰町から秋田市までの一帯が植林される礎となった。8代目兵左衛門以降も、金子家は代々郷土の発展に寄与した。村民200戸を募集し北海道開拓へと乗り出した14代目兵吉といった英傑も生み出す。不運にも兵吉は家族もろとも嵐に遭い36歳という若さで命を落とすが、その功績は開拓に成功した農民により金子神社祭神とされ、明治43年に湧出神社に合祀。さらに大正15年には頌徳碑が建立された。

### 秋田県刑余者更生保護の父 川村 養助



元治元年（1864年）不動田に生まれる。明治22年、25歳で下岩川村長に就任。次いで26年、県議会議員選挙に出馬し、見事に当選する。県議会議員となった養助は、能代橋の架橋、秋田高等女学校の開校、県立図書館の開館など、鋭い時代の洞察眼と卓越した政治感覚をもって施策を打ち出して行った。しかし、華々しい活躍を続ける養助に、思いもかけない出来事が襲いかかる。不正を憎む養助の考え方に不満を持っていた一部の人間の画策により、業務上横領、文書偽造行使の罪で告発されたのである。身に覚えのない横領の罪については無罪となったが、村役場の事務員の仕事の過失は村長の責任だとして反対派の人間に取り上げられ、裁判の結果、重禁錮2年の判決を受けるに至ったのである。明治31年、秋田監獄所に入った養助は、出獄しても前科者として職を得ることが出来ず、罪

を重ねて再び投獄されて来る実態を目の当たりにし、刑余者更生事業の必要性を痛感する。そして出獄後、親類縁者の反対を押し切り、妻子とも別れ、私財全部をつぎ込んで秋田出獄人保護所を秋田市に創設。明治36年、遂に司法大臣の許可を得て財団法人秋田至仁会が誕生する。しかし、東奔西走を繰り返すうちに養助の体は病魔に蝕まれ、明治38年、42歳の若さで永遠の眠りについた。秋田市八橋にある墓碑の裏面には、佐々木北涯の書いた顕彰文が深々と刻まれている。

### 世界的舞踊家 石井 漠

明治19年12月25日、長面に生まれた漠（本名・石井忠純）は上京後、小山内薫・山田耕筰の劇団「新劇場」に参加し、自らの創作舞踊を発表。浅草の日本館で「東京オペラ」を開演すると、これが爆発的な人気を呼んだ。また、大正11年、欧米公演に出かけた漠は、訪問各国で大絶賛を浴び、世界の石井漠としての揺るぎない地歩を固めるとともに、ついにニューヨーク・カーネギーホールとの正式契約を獲得する。昭和3年、「石井漠舞踊研究所」を建設。漠自らこの丘を「自由が丘」と呼んでいたことから、それがこの地の正式名称となった。昭和5年、石井漠舞踊学校が開校。後に、伝説の舞姫と謳われた崔承喜、台湾の人間国宝・李彩娥、石井栄子など数多くの優れた門下生を輩出する。

昭和28年、人間苦悩の象徴と称えられる「人間釈迦」が遂に完成。翌29年、芸術祭文部大臣賞と舞踊芸術祭賞を、30年には第一号の紫綬褒章を授章し、名実ともに日本芸術界の頂点に立った。昭和37年、享年75歳で死去。漠の人生は、栄光とは裏腹に、幾度にもわたる病気との闘いの人生でもあった。その都度漠は、強靱な精神力で難病・大病を克服していったのであるが、不死身の舞踊家石井漠の生涯も「目が見えて来た」との一言を残し、幕をとじたのである。



三種町が誇る  
郷土の偉人

### 農民救済のために命を懸けた人 増浦村円左衛門

今より300年以上昔の江戸時代、円左衛門は岩川村（当時上岩川と下岩川は一つの村であった）の肝煎をつとめていた。肝煎とは、藩のために年貢を集めることなどが仕事であるが、凶作の年でも納める年貢の量は変わらなかった。そのため農民の生活はいつも苦しくひどいものであり、そのことに見かねた円左衛門は藩に対し、年貢を少なくしてくれるよう頼んだ。

しかし、その願いはかなえられず、逆に、そういった考えは農民をそそのかすものだと見せしめのために張り付けの刑で処刑された。

自分の命をなげうってまで農民のために働いた姿に人びとは感動し、今では処刑された跡に記念碑が建てられている。



### 日本女性パイロットの草分け 及位 野衣

大正5年9月16日、川尻に生まれる。戸籍名はヤエだが、航空学校在籍時に周りは男性ばかりでカタカナ書きの人がなく目立つこと、また、特別扱いされることを嫌い、漢字を当てた『野衣』の名で飛行活動を行った。昭和12年、その、千葉県船橋市の第一航空学校に入学し、同年内に二等飛行機操縦士の免許（当時、女性が取得できたのは二等まで）を取得。同校における女性第一号のパイロットとなった。翌年、優秀な成績を見込まれ、同校助教授に採用されて後進の指導にあたる。が、まもなく日本は太平洋戦争へ突入し、戦争中は大日本航空の乗務員などとして働いた。

終戦後は、運輸省航空局の職員となって事業用の操縦士も勤め、昭和27年、航空業界で働く女性の地位向上を目指して、社団法人日本婦人航空協会（現在の日本女性航空協会）の設立を推進、理事となり、さらに昭和42年には理事長に就任した。また、昭和63年には羽田航空少年団の理事に就任し、青少年育成にも尽力した。昭和43年航空功労賞、昭和51年交通文化賞、昭和61年藍綬褒章を授けた。平成17年、享年88歳で死去。大空を生涯の伴侶とし、独身を通した人生であった。

